

第50回全日本大学男子選手権大会

平成27年8月29日(土)～9月1日(火) 三重県志摩市/磯部ふれあい公園グラウンド他

雨にも負けず



4チーム入賞

日ソ協記録委員 堀 義光

本大会の会場となった三重県志摩市は、四季を通じて温暖な気候で、市全域が伊勢志摩国立公園に位置し、太平洋と英虞湾、的矢湾のリニア式海岸に囲まれた自然豊かな美しい街として知られている。古くから都に豊富な海産物を献上する「御食つ国(みけつくに)」と呼ばれ、カツオ漁や海女漁、英虞湾の真珠や的矢湾のカキ、アサリ

などの養殖漁業、また観光の街として栄えてきたところである。来年には、「伊勢志摩サミット」が志摩市・賢島で開催されることになっており、今、世界の注目を浴びているところでもある。2021年には、「第76回国民体育大会」が三重県で開催され、志摩市では、ソフトボールをはじめ3つの競技

の開催が予定され、その開催に向けて準備が進められている。

今大会は、志摩市・磯部ふれあい公園ソフトボール球場他4球場を使用し、各ブロック予選を勝ち抜いた32チームの精鋭が一堂に会し、開催された。

開会式は、三重県営サンアリーナ・メインアリーナにおいて、男子32チーム、女子32チームの参加によって盛大に開催された。

大会初日は、朝方の大雨でグラウンドコンディションが悪く、早朝より関係者総出のグラウンド整備で9時30分から試合を開始することができた。試合がナイターになる会場もあり、すべての試合が終了したのは21時近くとなってしまうが、予定された16試合を無事消化することができた。

大会2日目は、雨天のため予定されていたすべての試合が順延。3日目は天候に恵まれ、予定された12試合を実施し、立命館大(京都)、日本体育大(東京)、中京大(愛知)、福岡大(福岡)が準決勝へ駒を進め、ベスト4が出揃った。

しかし、最終日がまたしても悪天候のため、やむなく中止。大会を打ち切り、4チームを「入賞」とすることで終了となってしまった。無情の雨により、このような形で大会を終えてしまったことが何より残念でならない。



大会は悪天候により、無念の打ち切り

〈進々決勝〉

立命館大

0	3	1	0	0	0	1	0
3	0	0	2	0	0	0	1x
6							5

立命館大

(国) 高木・星野・池田・服部

(立) 相佐・中原・田苗

▽内田、藤野、奥村(立)

□横山(国)、岸(立)

(審) P 沢田 1 三橋 2 大江 3 山田

〔記〕 青木

後攻の立命館大は初回、先頭打者・内田が中越ソロ本塁打を打ち、まず1点を先制。二死後、4番・岸の中越二塁打、5番・藤野の2点本塁打でこの回3点を挙げた。その後、一度試合をひっくり返されたものの、4回裏、二死二塁から8番・奥村の右越2点本塁打で逆転に成功。「勝利目前」の7回

第50回全日本大学男子選手権大会

1	国大	立命館大	6	5	5
2	2	立命館大	0	1	3
3	3	立命館大	1	0	1
4	4	立命館大	0	1	1
5	5	立命館大	10	2	4
6	6	立命館大	2	0	3
7	7	立命館大	13	6	2
8	8	立命館大	6	3	0
9	9	立命館大	0	1	1
10	10	立命館大	2	2	0
11	11	立命館大	0	1	1
12	12	立命館大	2	2	0
13	13	立命館大	0	1	1
14	14	立命館大	2	2	0
15	15	立命館大	0	1	1
16	16	立命館大	14	6	1
17	17	立命館大	0	7	2
18	18	立命館大	0	2	0
19	19	立命館大	7	2	9
20	20	立命館大	5	6	7
21	21	立命館大	6	3	2
22	22	立命館大	3	2	6
23	23	立命館大	11	3	2
24	24	立命館大	2	6	4
25	25	立命館大	4	2	2
26	26	立命館大	10	3	1
27	27	立命館大	3	1	2
28	28	立命館大	4	2	8
29	29	立命館大	10	3	2
30	30	立命館大	3	1	2
31	31	立命館大	1	1	2
32	32	立命館大	1	1	2

日本体育大
01000100
00000000
0 2

中京学院大
(日) ○河野一山内

〈準々決勝〉

表に再び同点に追いつかれたはしたが、延長タイブレーカーに入った8回裏、一死一・二塁から3番・川内の右前安打で劇的なサヨナラ勝ちを収めた。

一方、国士館大も一度は試合をひっくり返し、突き放されても、土壇場の7回表に同点に追いつき、延長タイブレーカーに持ち込む粘りを見せたが、あと一歩及ばなかった。

(中) ●竹本一西里
▽三古賀、湯浅(日) 三山内(日)
〔審〕P野沢 1伊藤 2金森 3森本
〔記〕生田

日体大は2回表、5番・古賀の右越三塁打でチャンスを作り、一死後、7番・河野の中犠飛で1点を先制。1点リードで迎えた5回表には、この回先頭の8番・鈴木が中前安打で出塁。三振、ショートライナーで二死となったが、これを捕球したショートがライナーで飛び出した一塁走者を刺そうと、一塁へ送球。これが悪送球となり、一塁走者が二塁へ進塁。ここで2番・湯浅が左越適時三塁打を放ち、貴重な追加点を挙げた。

一方、中京学院大は、日体大・河野

〈準々決勝〉

の好投の前にわずか2安打、9奪三振と抑えられ、三塁も踏めずに完封負けを喫した。

中京大
6200010
1010011
4 9

常葉大
(中) ○花岡・関口一水本・明松
(常) ●田村一佐藤
▽困庄司、佐藤、阿部田、酒井(常)
〔三〕生田②(中)
〔三〕佐野(中)
〔審〕P田野田 1大井 2祓川 3山中
〔記〕齋藤

〈準々決勝〉

日本福祉大
0010000
210104x
8 1

福岡大
※大会規程により6回得点差コールド
(日) 相合・●宮城・太田一井上
(福) ○多久島一山中・板野
▽困多久島(福) 〔三〕安武(日)
〔三〕難波(福)
〔審〕P鈴木 1石川 2山村 3川辺
〔記〕山中

福岡大は初回、1番・伊達が四球で出塁。一死後、ワイルドピッチで二塁へ進み、続く3番・難波の左中間を破る二塁打で先制点を挙げた。2回裏には、二死から1番・伊達が中前安打で出塁した後、すかさず盗塁を成功させ、2番・山川の中前安打で生還。1点を追加すると、1点を返され、迎えた4回裏には、8番・多久島が左越ソロ本塁打を放ち、再び3点差。6回裏には3安打に3四死球を絡めて4点を奪い、6回コールド勝ちを収めた。

一方、日本福祉大は3回裏、1番・安武の三塁打からチャンスをつかみ、3番・井上の中犠飛で1点を返し、完封こそ免れたが、得点はこの1点のみ。投手陣も福岡大の猛攻を止めることができず、コールド負けを喫した。

雨天のため4チーム入賞

立命館大

日本体育大

中京大

福岡大

先攻の中京大は初回、常葉大の先発・田村の立ち上がりを攻め、6本の長短打を集中し、一挙6点を先制した。これで勢いづいた中京大は、2回表にも一死二塁から6番・生田の右越三塁打で追加点を挙げ、6回表には相手守備の乱れに乗じて1点を追加する等、優位に試合を進めた。

一方、常葉大は初回にいきなり大量失点。それでも、4本の本塁打を放つ等、懸命に食い下がったが、本塁打はいずれもソロで効果的に得点に結びつけることができず、初回の大量失点を跳ね返すには至らなかった。